

eBook

VMware環境の 多角化で リスクを軽減

NUTANIX



Nutanixはさらなる柔軟性を提供することで 将来的なビジネスニーズへの対応を実現

BroadcomによるVMwareの買収は、価格の不確実性をめぐるリスク、またイノベーションの減退とサービスレベルの悪化の可能性に関する顧客の懸念を引き起こしています。

その結果、多くの組織はAI導入の加速化、クラウドネイティブアプリケーション、ハイブリッド・マルチクラウドIT運用に向けた準備と計画を進める中で、VMwareへの予算のコミットメントを見直しています。

VMwareの不確実性に対処するにあたっては、運用に第二のベンダーを追加する戦略が人気です。これによって、代替プラットフォームに既存のワークロードを移行して新しいワークロードを展開しながら、これまでのVMwareへの投資分がEnd-of-lifeとなるまで活用し続けることができます。実績ある代替案を選ぶことでリスクを減らし、将来的なビジネスニーズに対処するための柔軟性を手に入れることができます。

目次

Nutanixによる多角化

シンプルな管理	3
TCO(総所有コスト)の削減	3
ハイブリッド・マルチクラウド向けに構築	3

Nutanixの技術力

モダンハイパーバイザー	5
従来型およびクラウドネイティブのワークロード	6
統合データサービス	7
アナリティクス、レポート作成、自動化	8
セルフサービス	9
統合型フルスタックセキュリティ	9

二つの選択肢による多角化

AHVを実行するNutanix	10
VMware vSphereを実行するNutanix	10

始めましょう!



Nutanixによる多角化

Nutanixは、管理の簡素化、TCOの削減、ハイブリッド・マルチクラウド運用の実現によって、多角化を望むVMwareユーザーにとって理想的なプラットフォームを提供できます。AIとクラウドネイティブアプリを含む、すべてのワークロードを1つのNutanixプラットフォームに展開して、オンプレミス、クラウド、エッジなど場所を問わずに実行できます。

シンプルな管理

チームは沢山のことを抱えているため、複数のサイロ化されたインフラを手作業で管理することに煩わされる余裕はありません。Nutanixは、1-クリック運用とAIドリブンな自動化を提供する単一の管理プラットフォーム上でコンピュー、ストレージ、仮想化、ネットワークを統合して、IT運用の悩みと複雑さを排除します。

顧客からは、Nutanix環境の管理はVMware環境の管理よりもシンプルであるとの報告が多くあります。直感的な1-クリックのシンプルさとインテリジェントオペレーションが備わっているため、VMware製品に慣れた管理者チームはNutanixをすぐに習得して管理できると感じています。この二つの環境は摩擦なく共存できます。さらに、NutanixのツールはVMware環境も管理できるため、VMware Aria Suiteの機能に取って代わることができます。

TCO(総所有コスト)の削減

ほとんどのIT組織は、事業を継続させる現行の運用と事業を前進させる新たな取り組みのバランスを取るために絶えず苦勞することになります。AIイニシアティブとモダンアプリ開発のペースを加速化して範囲を広げていく過程では、運用の総コストをできる限りコントロールすることが不可欠です。将来的なコストの不確実性は、VMwareユーザーの間で報告されている最大の懸念の一つになります。

Nutanixのプラットフォームは、AIおよびクラウドネイティブの取り組みと共に、エンタープライズアプリもシームレスにサポートできるため、効率性と生産性を高めます。また、Nutanixは次の方法でもコストを削減できます。

- 業界トップのハイパーコンバージドインフラストラクチャー (HCI) をベースとしたハイブリッド・マルチクラウドアーキテクチャー。
- 仮想化に別途費用を支払う必要性を無くすネイティブハイパーバイザー。
- フルライセンスモビリティによってオンプレミスとクラウドの場所の間でライセンスを移行できるため、サンクコストを回避しながら、変化し続ける運用要件に対処可能。

最近行われた調査では、Nutanixの顧客が[平均してTCOを43%節約し、5年間で356%のROIを達成したことが明らかになっています](#)。

ハイブリッド・マルチクラウド向けに構築

IT運用は、ますます複数のデータセンター、パブリッククラウド、エッジロケーションにまで及ぶようになっていきます。注意して管理しなければ、運用の複雑さが桁外れに悪化することになります。VMwareの買収によって生じたベンダーの不確実性は、こうした複雑さの改善に寄与しません。Nutanixを使って多角化することで、ビジネスの競争力を保つ上で必要なハイブリッド・マルチクラウド機能が得られます。Nutanixは、データセンター、パブリッククラウド、エッジ向けにフルスイートのエンタープライズIT機能を提供するべく尽力してきました。

オンプレミスまたはクラウドのどちらでNutanixを運用している場合でも、管理の一貫性を保つことができます。これによって、チームが習得しなくてはならないクラウド固有のスキルを最小限に留め、希望するクラウド環境を簡単に立ち上げて稼働できるようにします。

Nutanixでハイブリッドまたはマルチクラウド環境を構築した場合、同じ管理ツールを使ってどこでも運用できるため、管理上の複雑性を大幅に削減できます。リファクタまたはリプラットフォームを行わずに環境をまたいで簡単にアプリを移動でき、アプリが期待通りに動作することを確信できます。

以下のセクションでは、こうした点をすべて可能にするNutanixの具体的なテクノロジーについて紹介しています。

Nutanixの技術能力

Nutanix Cloud Platform (NCP) ソリューションは、ハイブリッド・マルチクラウドインフラストラクチャーを構築するための安全性、回復力、自己修復機能を備えたプラットフォームです。NCPは、さまざまなコンピュー、ストレージ、仮想化、およびネットワーク要件を抱えるパブリックおよびプライベートクラウド、複数のハイパーバイザー、コンテナにまたがるあらゆる種類のワークロードと使用事例をサポートします。NCPは、特にVMware製品に関するスキルを持った管理者にとって、簡単かつ直感的に学習できます。固有のソフトウェアデファインドアーキテクチャーに基づき、必要とする信頼性と性能のほか、フルスタックの可視性、コントロール、自動化を提供します。

以下にご紹介するのは、リスクと時間を減らしながら、IT運用の多角化に役立つNutanixの6つの必須機能になります。すべての機能は本質的にハイブリッド・マルチクラウドであり、データセンター、パブリッククラウド、エッジでも同等にうまく運用できます。



モダンなハイパーバイザー

VMware ESXiで豊富な経験を得てきたITチームは、これまで他のハイパーバイザーについて考える必要がほとんどありませんでした。しかし、VMwareから多角化し、ラウド運用の拡張も視野にいれた場合、新たに追加するハイパーバイザーの特性について慎重に考えることが重要だ。

Nutanix AHVは以下を可能にするモダンなハイパーバイザーです。

- **エンタープライズ向けに一式のフル機能を提供。**AHVは高可用性、データ保護、ディザスタリカバリ、またIT運用が頼りにするその他の機能も提供します。
- **クラウドをまたいで実行。**AHVはデータセンターとエッジで利用可能なほか、AWSとMicrosoft Azureでネイティブに実行可能。Equinix, Cyxtera, OVHcloudなど、主要なクラウドサービスプロバイダーのサポート対象となります。
- **HCIに最適化済み。**AHVはHCIをサポートするように設計されており、主要なハードウェアサプライヤーの幅広いHCIに対応した構成によって卓越したパフォーマンスと信頼性を提供しながら、不要なソフトウェアの複雑性を回避します。

NCPはNutanix AHVハイパーバイザーとVMware ESXiの両方を実行できるため、Nutanixを選ぶことで優れた柔軟性を手に入れながら、目的を達成する計画を考案できます。お客様がすぐに取り掛かれるよう、[Nutanix AHVには1,000以上の検証済みソリューション](#)があります。

AHVにすべてを移行させる作業は極めてシンプルです。再起動のための5分間の時間枠さえあれば、あとは再度立ち上げて稼働するだけ済みます。

Ruffalo Noel Levitzシニアサーバーエンジニア、Bret Snyder氏

無料のクロスハイパーバイザーモビリティソリューションであるNutanix Moveは、VMをVMware ESXiからNutanix AHVに移行させる作業を簡素化しながら、カットオーバーにかかる時間を最小限に留め、重要なオペレーションが中断されないようにします。

サポート対象となる移行パスには、以下が含まれます:

- VMware ESXiからNutanix AHV
- VMware ESXiからNutanix Cloud Clusters (NC2) on AWS
- VMware ESXiからNC2 on Microsoft Azure
- 3Tierインフラストラクチャー上のVMware ESXiからNutanix Cloud Platform上のVMware ESXi
- VMC on AWSからNC2 on AWS

Nutanixは、AHVハイパーバイザーを使って運用コストを下げたほか、Nutanixクラウドマネージャー(NCM)でサポートの間接経費をさらに下げました。こうして、日常業務を自動化しながら、自信を持ってマルチクラウドの未来へ前進できるようになりました。

Bupaテクニカルサービスマネージャー、Rick Jagger氏

従来型およびクラウドネイティブのワークロード

現在の環境では、従来型およびクラウドネイティブアプリを別々の管理チームが、別々のインフラストラクチャー上で扱っているかもしれません。しかし、サイロ化したインフラストラクチャーと管理には、座礁リソース、コストの増加、そして柔軟性の減少を含めた危険が伴います。

Nutanixは、VM上で動作するレガシーアプリからコンテナ化したアプリまで、あらゆるアプリをどこでも必要な場所でシンプルに開発および実行できるようにします。こうしてインフラストラクチャー管理の複雑さが減り、チームはビジネスクリティカルなアプリの開発および運用に集中することができます。

柔軟性と選択肢

Nutanixの統合環境は、VMとコンテナ向けに卓越したサポートを提供します。Nutanix Kubernetes® Platformソリューションに加えて、Red Hat、Microsoft、Google Cloud、AWSとも戦略的パートナーシップを締結しています。このため、希望するKubernetesプラットフォームを実行しながら、これまでの投資とユーザー体験をオンプレミスのKubernetes環境にシームレスに拡張することができます。

使い勝手の良さ

Nutanixの場合、Kubernetesに必要なインフラストラクチャーはすべて追加設定なしで機能するため、時間のかかるインテグレーションを排除できます。また、永続データの保護を含めた複雑な運用タスクを、1-クリックの操作性で簡素化します。

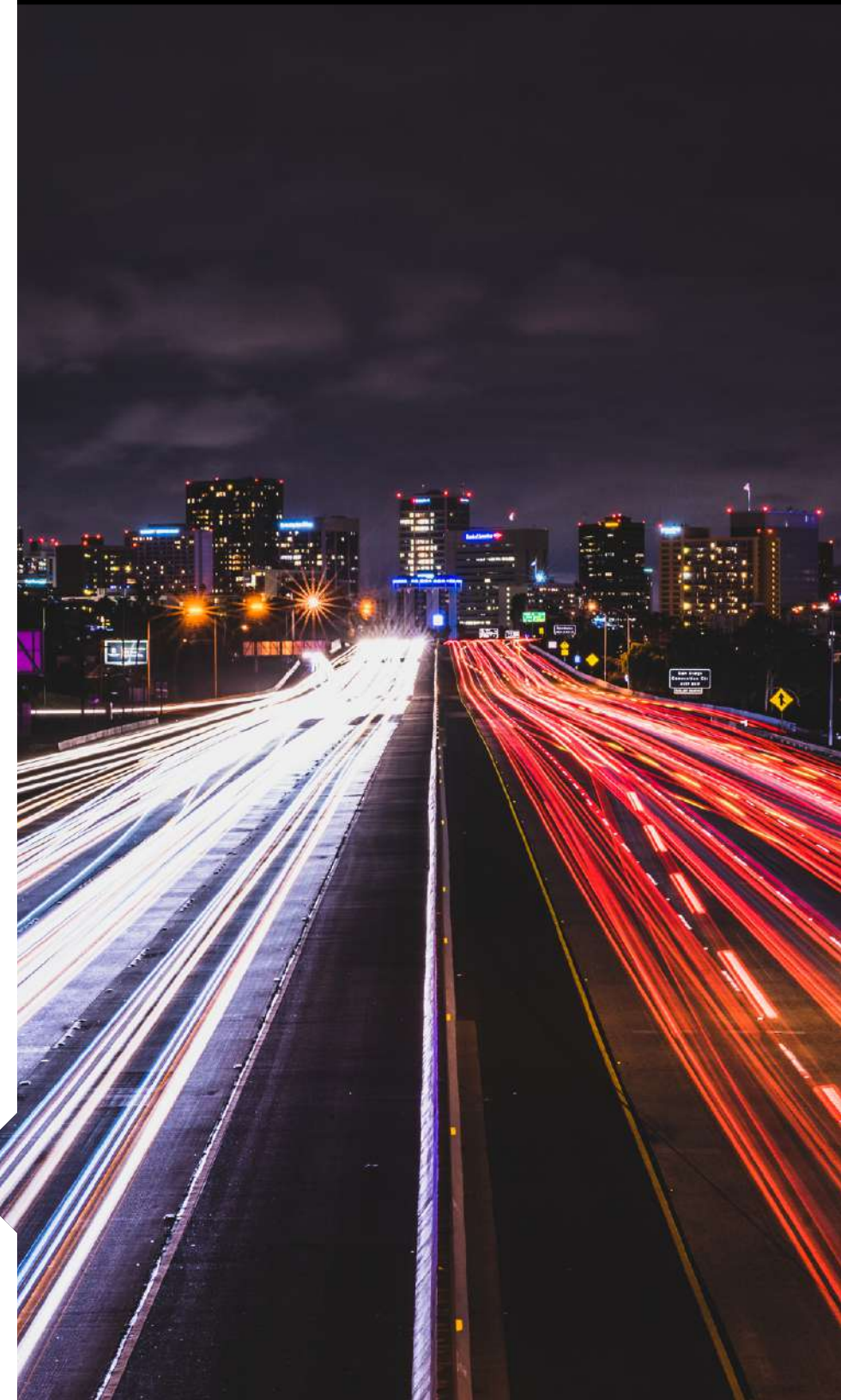
クラウドネイティブにとってのメリット

ビルトインされた自動化機能は、Kubernetesクラスタの展開時間を30分未満に短縮します。クラスタAPIのインテグレーションは、複数のKubernetesクラスタのプロビジョニング、アップグレード、運用を簡素化しながら、1-クリックの操作性でオペレーティングソフトウェア、アプリケーションソフトウェア、ファームウェアを簡単にアップグレードできるようにします。統合されたバックアップとディザスタリカバリ機能はオープンソースまたは商用のデータ保護ソリューションを統合する必要性を無くすことで、Kubernetes環境を合理化します。

クラウドネイティブにとってのその他のメリット:

- **拡張性。**Nutanix HCIの拡張性に優れた設計は、Kubernetesクラスタのアーキテクチャーに直接マッピングできます。
- **インテグレーション。**仮想化、インフラストラクチャーセキュリティ、ライフサイクル管理、データ保護、ディザスタリカバリなどの完全統合型ターンキー機能がKubernetes運用を簡素化します。
- **アプリ対応データサービス。**ELKスタック向けにブロックベースのストレージ、従来型ミドルウェア向けに読み取り/書き込みファイルストレージ、またはS3互換性のあるオブジェクトストレージが必要な場合でも、Nutanixは単一のプラットフォームからセルフサービスで開発者がアクセスできる状態を提供します。

Nutanixは、運用を多角化していく過程でVMとコンテナを実行して、クラウドネイティブへの道りを円滑にします。ビルトインされたKubernetesプラットフォーム、希望するKubernetesディストリビューション、そして最新のツールを選択し、AIのような最先端アプリ向けの開発と本番環境ニーズをサポートしましょう。パブリッククラウドサービスとの容易な統合により、アプリ開発を後押しします。



統合データサービス

データストレージは、IT部門にとって悩みの種となっています。VMwareなどの仮想環境をサポートするストレージに加えて、企業はデータベースやその他の高性能アプリをサポートするために、ファイルストレージならびに別個のブロックストレージも必要とするのが一般的です。さらに、クラウドネイティブアプリやアーカイブのニーズをサポートするため、オブジェクトストレージの需要がますます高まっています。

その結果、途方に暮れるほど多くのファイル、ブロック、オブジェクトストレージが乱立し、別々の調達、保守、管理、キャパシティプランニングが必要となります。こうしたストレージのサイロ化は、データセンターの複雑さとコストを増加させます。

Nutanixは、オープン規格に基づく一式の統合型データサービスを提供しています。こうしたサービスは、複雑さとコストを伴わずに、ITチームが成功するために必要な高い性能、回復力、エンタープライズ機能を提供します。

Nutanixのプラットフォームは、ディザスタリカバリ向けのスナップショットとレプリケーション、不変性のためのWORM (Write Once Read Many) サポート、スケールアウト可能な容量と性能、そしてネイティブ分析を含む、ストレージに関するあらゆるニーズをエンタープライズクラスの機能で満たします。

シンプルなデータサービス

Nutanixでは、ブロック、ファイル、およびオブジェクトストレージを統合データ管理プラットフォームにまとめることで、データベース管理が簡素化され、サービスとしてのデータベース (DBaaS) を可能にします。高性能、シームレスな拡張性、そしてランサムウェアやその他のサイバー脅威に対する堅牢なセキュリティを備えた単一のプラットフォームから、構造化および非構造化データに容易にアクセスできます。

VMwareユーザーのために、Nutanixは多様なストレージニーズを満たす単一のプラットフォームを提供できます。すべてのストレージサービスが同一のキャパシティプールを共有できるため、キャパシティプランニングが大幅に簡素化されます。Nutanixのデータサービスには、ファイル、ブロック、オブジェクト、およびデータベースの選択肢があります。



アナリティクス、レポート作成、自動化

データセンターを多角化していく過程で、ガバナンスとコンプライアンスはエンタープライズITの無視できない重要な構成要素となります。Nutanixには、時間がかかり、エラーを招きやすい手動のタスクを大幅に削減する完全な自動化と共に、コンプライアンスとレポート作成要件に対処できる幅広い機能が備わっています。

データアナリティクス

クラウドベースのデータガバナンスサービスであるNutanix Data Lensは、Nutanixプラットフォーム上に保存された非構造化データに対する、インテリジェントな洞察を備えたグローバルビューを提供します。このサービスは、異常なアクティビティを特定し、ユーザーの行動を監視して、コンプライアンス要件を遵守することで、データセキュリティリスクを予防的に評価して軽減します。

包括的な管理

多くのVMwareユーザーは、管理、ガバナンス、自動化のニーズに対処するため、VMware Aria Operations、VMware Aria Automation、VMware Tanzu CloudHealthなどのさまざまな追加のツールを利用しています。

Nutanixクラウドマネージャー (NCM) ソリューションは、こうしたソリューションに類似したフルスイートの機能を提供することで、アプリとインフラストラクチャーの構築、利用、運用、ガバナンスを簡単に行えるようにします。より迅速な価値創出を提供できるため、VMware Ariaの苛立たしい複雑さにとって代わる理想的な存在となります。

NCMは、単一のコンソールからの完全な可視性を備えており、業界トップのマルチクラウドのコストガバナンス機能を提供します。オンプレミスとパブリッククラウドインフラストラクチャーに対して、コストメータリングと単一の管理画面を提供します。

また、Nutanixはエンドツーエンドの管理と運用も提供します。タスク自動化、機械学習アルゴリズム、および予測分析を通じて、チームは運用の自動化、リソースの最適化、キャパシティニーズの予測、および予防的なパフォーマンスの異常検出を行えるようになります。こうした管理および運用機能は、3Tierインフラストラクチャー上のVMware展開とも互換性があります。

セルフサービス

セルフサービスは、ITの効率性を高めて、ソフトウェア開発のスピードを速めるのに不可欠です。Nutanixは、ハイブリッド・マルチクラウド環境にまたがる開発者とアプリオーナー向けに、統合型セルフサービス管理を提供します。

使い勝手の良い自動化によって、より迅速に成果を得られるようにします。例えば、VMプロビジョニングなどの日常的なサービスとしてのインフラストラクチャー (IaaS) タスクを自動化することで、開発者は遅滞なく確実にリソースにアクセスできるようになります。

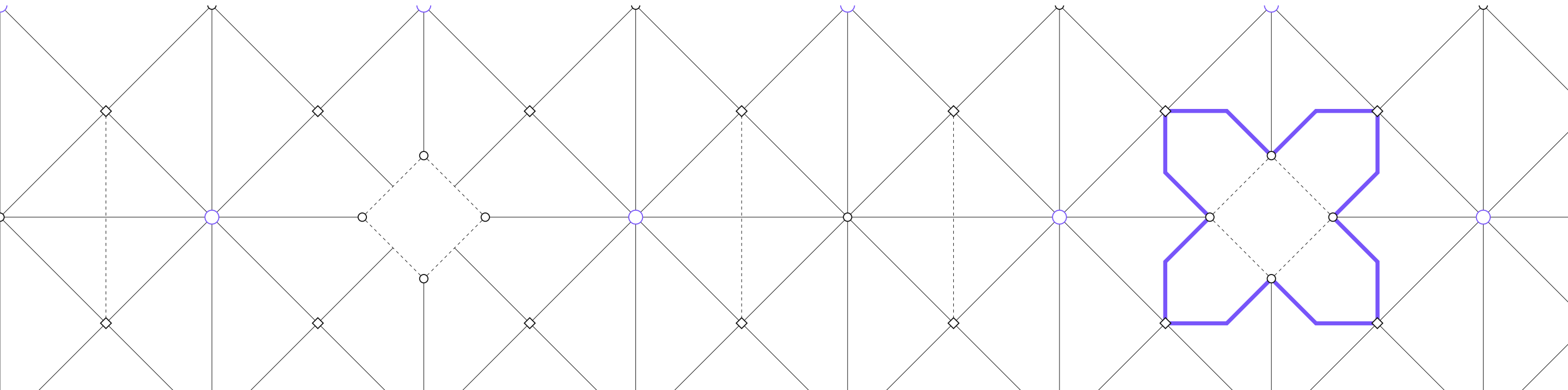
NCMIは、複数の環境にまたがった新規および既存のアプリをプロビジョニング、拡張、管理する方法を合理化します。これには、消費およびガバナンスの管理ツールのほか、ブループリントの作成、そしてライフサイクルの自動化および管理が含まれています。さらに、Nutanixのセルフサービス機能は、現在3Tierインフラストラクチャー上で稼働中のVMware展開とも利用できます。

統合型フルスタックセキュリティ

最後に、最も重要な機能についてご紹介します。IT運用の多角化を目指す計画はすべて、セキュリティを損ねるのではなく、強化する必要があります。しかし、ベンダーを追加すると多様なセキュリティコントロールを伴い、オペレーターによるミスやデータ漏洩の可能性が高まります。

Nutanixは、開発に対してセキュリティファーストのアプローチを採用しており、当社ソフトウェアのセキュリティが追加設定なしで要塞化されるよう万全を期しています。Nutanixのシステムは定期的なスキャンによって、セキュリティのベースラインに自己修復できます。Nutanix環境のコンピュー、ネットワーク、ストレージ機能間の緊密なインテグレーションは、異なる機能が連動した場合に起きるセキュリティギャップのリスクを低減できます。

NCMIは、サイバーセキュリティに関する高度なトレーニングや追加の人員を必要とせず、あらゆるクラウドを対象にワークロードのセキュリティを計画、管理、ガバナンスする単一ダッシュボードを提供します。さらに、このソリューションは、インテリジェントな分析によるインシデント対応の自動化とセキュリティの戦略的な取り組みに向けた規制へのコンプライアンスを可能にします。



二つの選択肢による多角化

IT運用を多角化していく中でNutanixを選ぶことの大きなメリットは、自社のビジネスおよび運用ニーズと最も緊密に連携可能な戦略を選択できる柔軟性が得られる点にあります。

オプション1: AHVを実行するNutanix

エンタープライズグレードのAHVハイパーバイザーを実行するNCPを選んだ場合、組織は管理の簡素化、TCOの最小化、ハイブリッド・マルチクラウド運用のフルサポートを含む、Nutanixのあらゆるメリットを提供できるようになります。NutanixでAHVを実行する場合、HCI向けに完全に最適化された、複数のクラウドにまたがるエンタープライズのフル機能を提供できます。

このオプションで得られる柔軟性は、以下を可能にします:

- Nutanix Moveを使用してVMwareからAHVに既存のワークロードを移行。
- レガシーインフラストラクチャー上で実行中のVMwareに既存ワークロードが残っている状態で、新しいワークロードをAHVに展開。

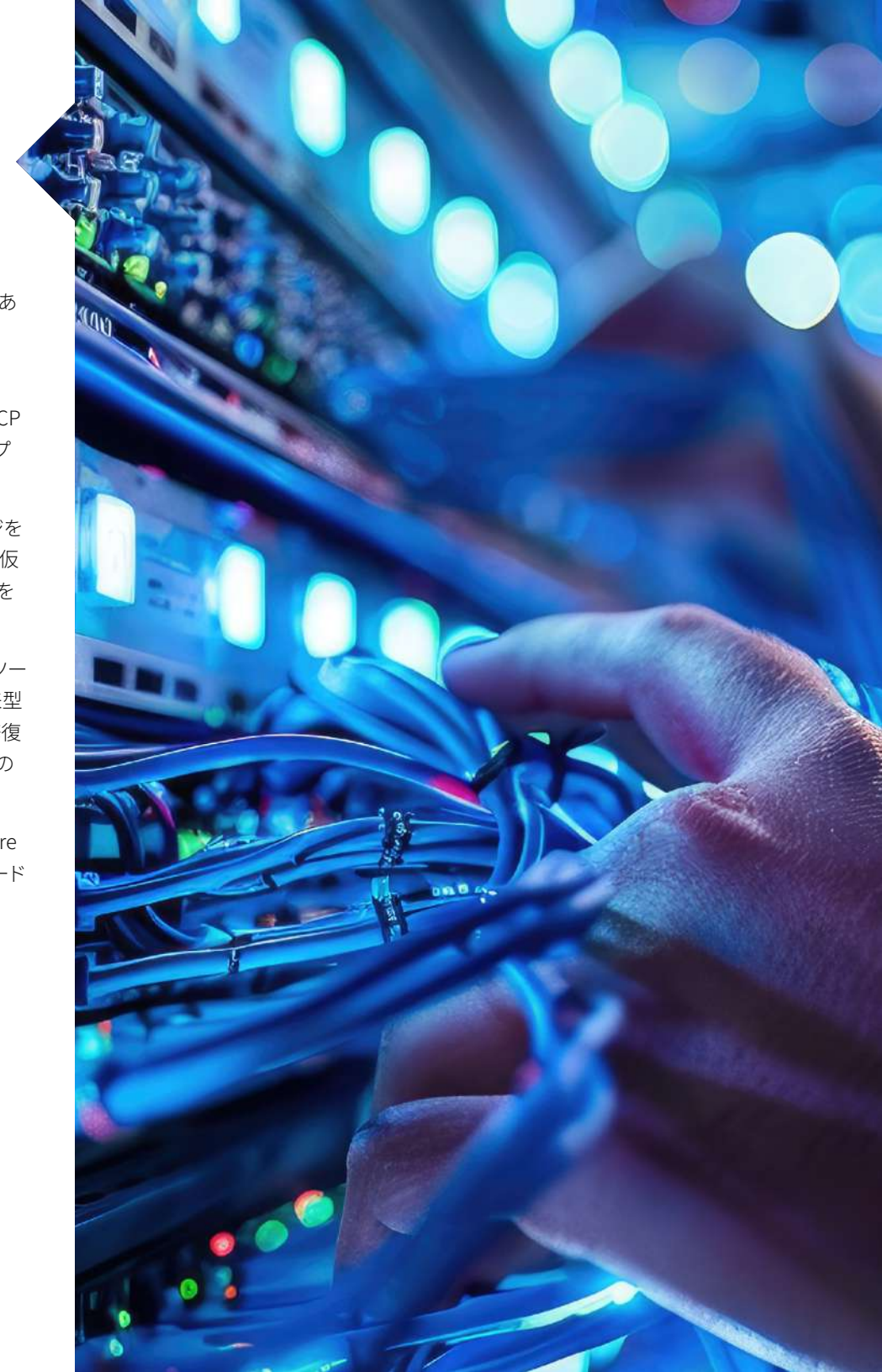
オプション2: NutanixでVMware vSphereを実行

一部の状況では、作業ペースを落としたいと考えることがあるかもしれません。NCPは、VMware環境を妥協なく全面的にサポートしており、入念に考案されたステップバイステップのアプローチで運用を多角化する柔軟性を提供できます。

元々、Nutanixのプラットフォームは、別々のコンピュート、ネットワーク、ストレージを持つ3Tierインフラストラクチャーの展開と管理に伴う複雑さを排除して、VMware仮想化を使用するユーザーに当社のHCIアーキテクチャーが持つシンプルさと能力を提供することを目的に設計されました。そのメリットは現在も変わりません。

NutanixはvSphereとの全面的な統合を可能にするため、慣れ親しんだVMwareツールを使い続けながら、VMwareのVMをNutanixに移行できます。これによって、従来型SANの複雑さが排除されるほか、障害から素早く回復するための微調整と自己修復を常に行うことなく、シンプルな管理と卓越した性能を含むNutanix HCIの数多くのメリットを解き放つことができます。

将来的にAHVに移行する選択肢も残しつつ、Nutanix Moveを使って既存のVMwareワークロードをNutanixに移行し、VMwareを実行するNutanixに新しいワークロードを直接展開しましょう。



始めましょう！

あとは、データセンターの多角化を目指して突き進むだけです。さらに詳細をご希望の場合は、当社のVMwareからNutanixへの移行ガイドをご覧ください:

ガイドを入手

実際にNutanixのソフトウェアを試したい方のために、Nutanixの違いを体験していただける無料お試し版のテストドライブをご用意しています。

Test Driveを利用する

詳細をご希望の場合は、nutanix.com/jpをご覧ください。また、Nutanixへのお問い合わせは、contact-jp@nutanix.comまでメールでのご連絡、またはwww.nutanix.com/jp/demoからのデモリクエストをお待ちしております。

NUTANIX

contact-jp@nutanix.com | nutanix.com/jp | [@nutanixjapan](https://twitter.com/nutanixjapan)

©2024 Nutanix, Inc.無断転用は禁止されています。本文書に記載された、Nutanix、Nutanixのロゴ、およびNutanixのその他全ての製品、提供機能、およびサービス名は、米国およびその他の国においてNutanix, Inc.の登録商標または商標となります。Nutanix, Inc.は、VMware by BroadcomまたはBroadcomと提携していません。本書に記載されているVMwareおよびさまざまなVMwareの製品名は、米国およびその他の国におけるBroadcomの登録商標または商標です。本文書に記載された、その他のブランド名は、識別目的のみに使用されており、それぞれの所有者の商標となります。本コンテンツ内に含まれる一部の情報は、調査、発行物、アンケート、および第三者の情報源および当社が独自に行った社内の予測・研究におけるその他のデータに関連するか、これに基づいています。こうした第三者による調査、発行物、アンケート、およびその他のデータは本コンテンツの投稿時点で信頼性があるものの、独自には検証されておらず、当社は第三者の情報源から取得した情報の適性、正確性、または完全性に関して一切の表明を行いません。
DiversifyYourVMwareEnvironmenttoReduceRisk-eBook-FY24Q4-v4_ja-JP_09132024

